

◎ユーロ崩壊、EU消滅のタイトルが溢れる出版界の困った風潮。

日本経済の進路を見誤まる。出版不況をかえってあおる結果になる。

◎「ユーロは絶対に崩壊しない」を9月13日上梓。幻冬舎ルネッサンス新書

ほぼ同時に刊行された2つのEU翻訳本は、真逆の内容。

E. トッド「問題は英国ではない、EUなのだ」とJ. ステイグリッツの「The Euro」
随時取り上げて対比する。

<第1章> ギリシャ危機で鍛えられ大ものになったメルケル独首相

○ユーロの欠陥は叩き直された。新財政協定など3つの防衛措置。ドラギECB総裁の
「何でもやる」発言の介入。「非救済条項」違反だが黙認される。○強いドイツの存在、
しかしドイツは帝国にはなれない。「横並びでは大きい、覇権を取るには小さい国」。
EUには覇権を許さないシステムが出来上がっている。

<第2章> 利益至上主義を否定する大陸ヨーロッパの資本主義

対等の統合「ヨーロッパ合衆国」の理想は、国境なき通貨ユーロの統合経済圏に向かう。

○ドイツの経済思想は、アングロサクソン・マネー資本主義の利益至上主義を否定し、
社会福祉を重んじる社会的市場経済。○ドイツの強さはゲルマン・コンセンサス社会。
共同決定法は、穏健な労働争議を生む。政治も保革大連立。○社会市場経済はリスボン
連合条約第3条に取り入れられる。ユーロ・システムと連合条約で合体。

<第3章> EUが取り組む4つのテーマの歴史的背景

1. イギリスとの歴史的な確執。2. 経済通貨統合で国家の権限は中央にプールされ、
国家は次第に溶解する。3. ユーロ導入で「通貨主権」もプール。ユーロ共同債の創出
で経済通貨統合は完成し、次の政治統合に向かう。④イスラムとの共存。イスラム価値
観を尊重する必要。現代世界のすべての混乱は植民地主義の怨念が根底にある。

<第4章> イギリスが離脱してもユーロ圏は揺るがない

○国民投票の結果、イギリス社会のさまざまな局面での分断が明らかになった。

エスタブリッシュメントと低所得層の分断は、マネー資本主義がつくった格差社会。

○物づくりを捨てたイギリス経済の先行きは不透明。○イギリスは70%以上が残留
を望んだ若い世代が支配層になる30年後、EUに復帰するだろう。○ロンドン中心主
義の時代は終わった。メディアは大陸にも取材拠点をおく複眼的な視点が必要だ。

<第5章> 17年の仏独2大選挙の展望。○フランスのFN国民戦線は決選投票で
は勝てない。○独の総選挙でメルケル首相は4選に挑戦するか。いずれにしても201
9年にEU首脳会議常任議長、いわゆるEU大統領、任期5年に選ばれると予想する。
メルケル大統領が率いるユーロ経済圏が始動する。

論点① EUは「対等の統合」から、ユーロ統合経済圏へ

1. ユーロは第1次ギリシャ危機で、財政ばらばらの欠陥通貨から、3つの防衛策の確立で強い通貨になった。

2. 危機にECBが介入し、ドラギ総裁が赤字国債の無制限の買い入れを示唆する発言をして鎮静化した。これは大原則の「非救済条項」違反だが黙認された。

3. 対等の統合では加盟国国家は、財政赤字は自らの責任で処理し支援を受けてはならないことになっていたが、ユーロの導入でこの原則は崩れた。ユーロ経済圏が一つの統合経済圏として成立しつつあることが示された。

論点② EUの大陸資本主義は、アングロサクソン資本主義と一線を画する大陸資本主義の基本は、ドイツの社会的市場経済。戦後アデナウアーの次のエアハルト政権で確立され、以後 社会民主党政権も尊重する大原則になった。

アングロサクソンの自由放任と一線を画し、利益至上主義を否定、社会福祉を重視。

社会的市場経済は、2009年成立のリスボン条約第3条にも取り入れられている。

社会的市場経済とユーロ・システムはEU連合条約で合体した。

論点③ ゲルマン・コンセンサスとドイツ特有の共同決定法。

従業員の数に応じて、一定数の労働組合員を会社の監査役会のメンバーとすることを義務付けている。穏健な労使関係が作り出されるドイツ特有のシステム。

コンセンサス社会のドイツは政治の世界でも保革の大連立政権が成立する。

ドイツの安定した政治と強い経済が、ユーロ経済圏の軸となる。

論点④ メルケル主導のユーロ経済圏が始動する

17年5月の仏大統領選挙は、極右の国民戦線FNが決選投票に残る可能性はあるが、社会党と共和党が互いに支持しあう共同戦線を組むので、最終的な勝利はない。

17年秋のドイツ総選挙は、メルケル首相が4期目に挑戦するかどうか注目される。難民問題をめぐる支持率がカギとなる。

もし後進に譲るにしても、2019年、現在トゥスク元ポーランド首相が務めるEU首脳会議常任議長の席が空く。通称EU大統領。ここにメルケル首相が選ばれる可能性十分だ。EU首脳会議で選出されるが、各国のメルケルへの信頼は強い。

メルケルEU大統領の下で、ユーロ経済圏が始動すると予想する。

以上